

神奈川県 小学校高学年 教科担任制

組織的な指導力の向上



- 授業の質の向上
- 小・中学校間の円滑な接続
- 多面的な児童理解
- 教師の負担軽減

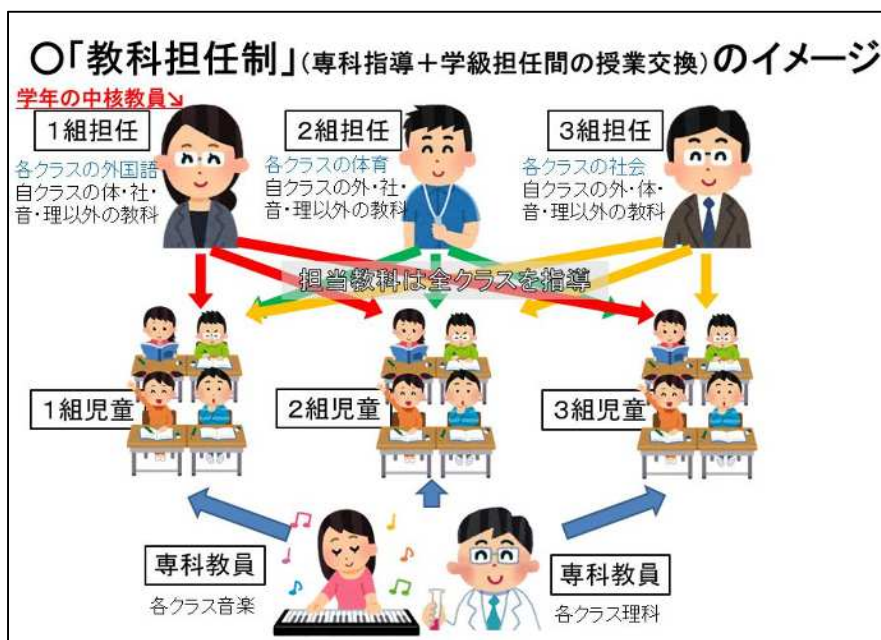
令和6年6月
神奈川県教育委員会

<神奈川県における小学校高学年教科担任制について>

- 「小学校高学年における教科担任制」については、「授業の質の向上」、「小・中の円滑な接続」、「多面的な児童理解」、「教員の負担軽減」といった効果が国の調査研究により確認されており、令和4年度から、全国的に小学校高学年における教科担任制が本格的に導入されました。

こうした動きを踏まえ、県教育委員会では、特定教科の専科指導に加え、学級担任間の授業交換も併せて行い、複数の教員がチームとして一人ひとりの児童に関わることにより、組織的な指導力を向上させていくことをねらいとして、令和4年度より、県域において、「推進協力校」を指定し、小学校高学年における教科担任制を推進しています。

このたび、学校が円滑に教科担任制を導入することを目的として、各推進協力校での取組事例等を掲載した、教科担任制リーフレットを作成しましたので御参照ください。各学校における組織的な指導力の向上の一助となることを願っています。



学年の中核教員を中心に、各担任及び専科教員等、当該学年の授業を行う全教員で児童に関わり、組織的な指導力の向上につなげていく。

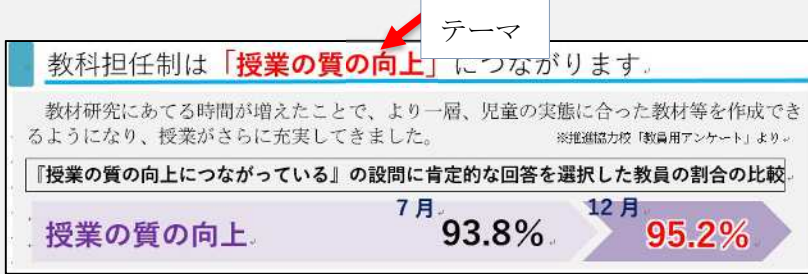
<本リーフレットについて>

- 本リーフレットは大きく2つのパートに分けています。前半のパートは、「Ⅰアンケートから見える成果」、「Ⅱ各学校の取組」、「Ⅲ時間割設定のための割り当て・時間割例」の3つの項目で構成しています。後半のパートは、これまで推進協力校等からよく聞かれた質問とその対応方法についてQ&A方式で掲載しています。

○次ページ以降（3～6ページ）は次のような構成になっています。

I アンケートから見える成果

推進協力校が実施したアンケート結果から見える成果を示しています。



令和5年7月と12月に実施したアンケート結果の変化を示しています。

II 各学校の取組

テーマごとの推進協力校の事例等を紹介しています。

○授業の質の向上に向けた取組事例（令和5年度推進協力校より）

☞授業改善の充実。

同じ単元を複数回、行うことで、授業改善につながりました。最初に行った授業から指導内容をさらに改善し、次の授業に生かしています。指導する学級の順は、いつも同じ順にならないようにしていました。

また、同じ指導内容であっても、学級の実態によって、発問や展開を工夫して授業改善を図るようにしています。

☞教員同士で学び合う環境の醸成。

専科教員の授業や、授業交換の際、他の教員の授業を、週に1時間参観する時間を決めたり、T2で入ったりしています。指導方法や児童の様子などについて話し合うことで、学級経営の課題を明確にしたり、自らの指導方法を工夫改善を図るようにしています。


事例

☞指導力の向上。

その年度に担当しない教科については、授業を参観したり、指導を検討し合ったりする機会を意図的にもつことで、指導力の向上に努めています。

☞「教科通信」や研修の実施。

「教科通信」を定期的に発行し、授業実践を紹介しています。また、夏休み等の長期休業中には、専科教員を講師とした校内研修を実施し、指導や評価のポイントを学び合っています。



テーマごとに事例を紹介。教科担任制を運用する上での参考にしてください。



III 時間割設定のための割り当て・時間割例

高学年の授業交換の割り振りや、時間割設定の具体例を紹介しています。

<3・4・5・6年 各3学級>○学級担任による授業交換 ○専科教員

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭科	体育	外国語
3年	担任	担任	担任	担任	H	担任	担任	担任	I
4年	担任	担任	G	担任	H	担任	担任	担任	I
5年	ABC	A	ABC	ABC	H	B	C	G	I
6年	DEF	D	DEF	DEF	H	E	F	G	I

【注目】担任B・C・E・Fは、担任A・Dと比べると時数が少ない。その分、専科教員の授業のT2に入ったり、特別支援学級の授業に入ったりしている。授業時間の差は分掌等の分担で調整している。

各ページの事例とリンクしています。【注目】の部分に工夫が見られます。

教科担任制は「授業の質の向上」につながります

教材研究にあてる時間が増えたことで、より一層、児童の実態に合った教材等を作成できるようになり、授業がさらに充実してきました。

※推進協力校「教員用アンケート」より

『授業の質の向上につながっている』の設問に肯定的な回答を選択した教員の割合の比較



○授業の質の向上に向けた取組事例（令和5年度推進協力校より）

☞授業改善の充実

同じ単元を複数回、行うことで、授業改善につながりました。最初に行った授業から指導内容をさらに改善し、次の授業に生かしています。指導する学級の順は、いつも同じ順にならないようにしました。

また、同じ指導内容であっても、学級の実態によって、発問や展開を工夫しています。

☞教員同士で学び合う環境の醸成

専科教員の授業や、授業交換の際、他の教員の授業を、週に1時間参観する時間を決めたり、T2で入ったりしています。指導方法や児童の様子などについて話し合うことで、学級経営の課題を明確にしたり、自らの指導方法の工夫改善を図るようにしています。

☞指導力の向上

その年度に担当しない教科については、授業を参観したり、指導を検討し合ったりする機会を意図的にもつことで、指導力の向上に努めています。

☞「教科通信」の発行や研修の実施

「教科通信」を定期的に発行し、授業実践を紹介しています。

また、夏休み等の長期休業中には、専科教員を講師とした校内研修を実施し、指導や評価のポイントを学び合っています。



○教科担任制導入校（A小学校）の教員割り当て例

5年担任A 5年担任B 5年担任C 6年担任D 6年担任E 6年担任F
教科担任制専科教員G 専科教員H 外国語専科教員I

<3・4・5・6年 各3学級>○学級担任による授業交換 ○専科教員

	国語	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭科	体育	外国語
3年	担任	担任	担任	担任	H	担任	担任	担任	I
4年	担任	担任	G	担任	H	担任	担任	担任	I
5年	ABC	A	ABC	ABC	H	B	C	G	I
6年	DEF	D	DEF	DEF	H	E	F	G	I

【注目】担任B・C・E・Fは、担任A・Dと比べると時数が少ない。その分、専科教員の授業のT2に入ったり、特別支援学級の授業に入ったりしている。授業時間の差は分掌等の分担で調整している。

教科担任制は「小・中学校間の円滑な接続」につながります

「中学校のような教科担任制に児童が慣れていくことで、児童の中学校での生活への不安が解消される」と考える教員が多くいました。

※推進協力校「教員用アンケート」より

『小・中学校間の円滑な接続につながっている』の設問に肯定的な回答を選択した教員の割合の比較



○小・中学校間の円滑な接続に向けた取組事例（令和5年度推進協力校より）

☞学年に応じて段階的に教科担任制を実施

小学校3・4年生と小学校5・6年生と段階的に教科担任制の対象となる教科数や時間数を増やして実施しています。



例

- 3年生…音楽
- 4年生…理科・音楽・外国語活動
- 5年生…理科・音楽・外国語・
交換授業：図画工作・家庭
- 6年生…国語・理科・音楽・図画工作・外国語
交換授業：家庭・体育

☞中学校の授業研究会等に参加

学区の中学校の授業研究会の予定を共有し、積極的に参加しています。特に中学1年生の学びを確認し、系統性を意識した教材研究を心がけています。

☞中学校の学校生活を意識した指導

中学校では、小学校より多くの先生に関わります。子どもたちには自分が話しかけやすい先生に相談してよいことを伝えています。

また、中学校では1単位時間ごとに指導する教員が替わるので、時間内に授業を終えるよう心がけています。

☞中学校の教員との具体的な情報共有

小・中学校の教員が、お互いの授業を参観できるように、基本時間割を小・中学校間で共有しています。例えば、中学校の数学科の教員が、小学校算数専科の授業を参観することで、小学校段階での子どもの具体的な学習の状況や様子を共有できます。

○教科担任制導入校（A小学校）の時間割例

<5・6年 各3学級> A週・B週の2パターンで編成している。（A週のみ掲載）

○5年担任A 5年担任B 5年担任C 6年担任D 6年担任E 6年担任F

○教科担任制専科教員G 専科教員H 外国語専科教員I （A週のみ掲載）

	月			火			水			木			金					
	5-1	5-2	5-3	6-1	6-2	6-3	5-1	5-2	5-3	6-1	6-2	6-3	5-1	5-2	5-3	6-1	6-2	6-3
1	外	外			体					図	家	音	外	社	家			
2	社	外			体					図	家	社				音	家	体
3		社	外	家				音						外	社	図	家	図
4				家	外	社		音		社				図	外	図	社	図
5	体		社	外	社		図			社	体	音	外			音	社	図
6			体				図	体	社	音						音	図	社

【注目】高学年に9名の教員が関わっており、児童が相談できる教員が増えるとともに、中学校での全ての教科担任制に慣れ、中学校生活への円滑な接続につながる。

教科担任制は「多面的な児童理解」につながります

学級担任だけでは、気が付かない児童の様子や思いを知ることができるなど、多面的な児童理解につながっていることを実感しています。 ※推進協力校「教員用アンケート」より

『多面的な児童理解につながっている』の設問に肯定的な回答を選択した教員の割合の比較



○多面的な児童理解に向けた取組事例（令和5年度推進協力校より）

☞特別支援学級在籍児童の個別指導
授業外時間7時間のうち2時間は、特別支援学級の児童の支援や授業を行っています。特別支援学級に在籍している児童に複数の教員が関わることができます。また、教員の特別支援学級への実感的な理解につながっています。

☞5・6年合同で情報交換会を実施
中核的な教員がリーダーシップを発揮して、計画的に情報交換会を進めています。普段の情報交換に加え、長期休業前などには、5・6年合同情報交換会を実施しています。非常勤職員を含め5・6年生に関わる全ての教職員が可能な範囲で参加しています。

☞週案会議を定期的で開催し、児童の様子を学年で共有

学年での週案会議を週に一度設定しています。時間割を工夫し、授業外時間を学年で揃え、児童の情報交換会を時間割のコマとして設定しています。学年の情報共有がじつくりと、そしてスムーズに図れるようになりました。



☞チームでの対応

学級担任が不在の時に、保護者から相談があった際、他の教員もそのクラスで授業を行ったり、こまめに情報共有をしたりしていたため、保護者に授業での様子を伝えることができました。

○教科担任制導入校の時間割作成例（B小学校）＜5・6年各2学級＞（6月第1週を掲載）

○専科：算数科、音楽科 ○授業交換：社会科（1組担任）理科（2組担任）

	月				火				水				木				金			
	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2	5-1	5-2	6-1	6-2
1					理	社			算		社	理							社	理
2	算				社	理	音	算		算	理	社			算	音		算	理	社
3		算					算	音	理	社	算				音	算	算			
4			算		音	算			社	理		算	算	音						算
5				算	算	音							音	算	社	理	理	社	算	
6															理	社	社	理		

【注目】算数と音楽を組み合わせることで、その時間に学級担任同士で学年打ち合わせを実施。

教科担任制は「教師の負担軽減」につながります

授業外時間が増え、教材研究や学級経営上の業務を行うことができるようになり、教員の負担軽減につながっています。

※推進協力校「教員用アンケート」より

『教師の負担軽減につながっている』の設問に肯定的な回答を選択した教員の割合の比較

教師の負担軽減

7月

84.6%

12月

87.2%

○教師の負担軽減に向けた取組事例（令和5年度推進協力校より）

☞校内での人材育成

高学年では週7時間の授業外時間があります。その時間を利用して、経験の少ない教員へ研修等を行っています。学級経営等について一緒に考えるよい機会になっています。また、高学年の教員にとってもミドルリーダーとしての自覚を促す場となっています。

☞時間割作成の工夫による負担軽減

時間割を工夫し、なるべく同一教科を連続して授業を行えるようにしています。教員の移動や準備にかかる負担を減らしています。例えば、A先生が1組、2組、3組の体育と社会を担当する場合、体育の授業の間に社会の授業を入れず、3クラス連続で体育の授業を行っています。

☞教科専用の教室の設置による学習環境の整備や、授業準備・片付けの負担の軽減

教科専用の教室を設置し、授業に必要な道具や機器、児童の興味をひく書籍や、学びの足跡が確認できる掲示物などの環境を整備しています。



☞教員が一人で抱え込まない安心感

授業交換を行うことで、普段の教室での児童の様子を確認できています。トラブルなどが起こったときも、児童の実態を理解したうえで、情報共有を素早く行いました。また、学級での課題を担任一人が抱え込まなくなることによる教員の心理的な負担軽減にもつながっています。

○高学年教科担任制導入校（C小学校）の時間割設定例 <5・6年 各1学級>

○専科教員A 専科教員B 5-1担任 6-1担任 ◎：学級担任が授業を行わない時間

	月		火		水		木		金	
	5-1	6-1	5-1	6-1	5-1	6-1	5-1	6-1	5-1	6-1
1	理	社	算		算◎	外◎	理	社	理	社
2	社	理		算◎	外◎	算	社	理	社	理
3	家◎			家◎		外◎	算			算
4	家◎			家◎	外◎			算◎	算	
5	算◎						図◎			図◎
6		算◎					図◎			図◎

【注目】学級担任が授業を行わない時間を確保することで、経験の少ない先生をフォローする時間等にあてる。※専科教員は中学年の算数（TT）にも入る。

FAQ よくある質問

① 時間割編成に関すること



時間割の編成が難しく、時間がかかってしまいます。うまく編成するためにどのような工夫が考えられますか。

私の学校では、中核を担う教員が週案を出して、それを学年会で検討しています。一人の教員が調整をすることで、混乱なく時間割を編成することができます。

私の学校では、ICT端末を使って、週案や特別教室の予定表等のデータを共有しています。変更があったときにすぐ反映されるので、他のクラスの時間割も把握することができます。

私の学校では、専科教員が2～3週間先を見通して、早めに週予定を出します。特に行事が重なるときの調整には時間がかかるためです。早い段階で共有することで、先を見通した時間割編成を行うことができます。



② 情報共有に関すること



出張や会議、業務が多くある中で、どのように情報共有をしていますか。また、面談のときに教科の様子をどのように伝えていきますか。

職員室の座席を近くにすることで、日常的に授業や児童の様子を伝え合うようにしています。場合によってはICT端末や付箋等を活用して情報共有をしています。また、じっくり時間をとって情報共有するために、年間の授業計画に、「高学年教科担任制打合せ日」を設定しています。

面談前には教科担当から学級担任へそれぞれの児童の様子を教科所見として記録したものを共有しています。教科コメントは特に保護者へ伝えて欲しい内容にすることで、負担になりすぎないようにしています。



授業交換の際に欠席した児童への対応はどのように工夫していきまか？

欠席した児童の対応や支援については、学級担任が主となって関わることで児童の安心につながります。授業交換をしている教員とお互いに話し合いながら、協力して積極的に支援しています。

また、日頃からお互いに指導方法の打ち合わせをしたり、授業内容や宿題等をICT端末や連絡黒板等を利用したりして情報共有しておくことも有効です。



③ 児童指導の際の対応に関すること



児童指導の必要が生じたときに、次のクラスの授業が入っていてすぐに対応できないことがあります。どのようにしていますか。

学年の全ての児童を全ての教員で見守るという利点を生かして児童指導しています。その際、大切なことは、学年で組織的に対応することだと考えています。



④ 授業の質の向上に関すること



教科の授業を一人で担うとなると専門性が必要になるかと思えます。授業の質の向上のためにどのようなことを行っていますか。

教科指導の専門性を高め、授業の質を向上するため、夏季休業中の教科研修や、市町村の研究会の研究発表会などに参加し、教科の本質に迫れるように研鑽を積みました。また、学区の小・中連携に係る会議の際に、中学校の先生と教科指導について協議する時間をとれたことも有意義でした。



⑤ 教員の指導力に関すること



学級を担任しないことや指導しない教科があることで、自分自身の指導力が向上しないのではないかと不安です。

授業外時間には、教室の後方で教材研究等を行っています。他の先生の実践を知ることができ、参考になります。また、夏季休業中に、指導していない教科の授業に係る研修に参加しています。一つの教科の指導力を高めることは他の教科の指導にもつながっていきます。



⑥ 保護者や地域への発信に関すること



小学校高学年教科担任制を実施するにあたり、保護者や地域の方に、その目的やねらいを伝えていく必要があります。どのように発信していますか。

保護者の理解は教科担任制の円滑な導入には重要です。年度当初の保護者会等で保護者に教科担任制のねらいなどを周知しています。また、学校だよりや学年だより、学校運営協議会等を活用し、積極的にその状況を発信し、保護者や地域の理解が得られるようにしています。



作成

教科担任制リーフレット作成ワーキンググループ